



フルオートタイプ【あたため上手】

工事説明書(一般地仕様)

型 式			タンク 貯湯量
システム	ヒートポンプユニット	貯湯タンクユニット	
BHP-FP46FULB	BHP-HA601	BHP-TAP461LB	460L

1. 据付けおよび付帯工事をされる方へ

- この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。据付工事の前に「安全上のご注意」を必ずお読みください。
- 工事後は、取扱説明書とともに、お使いになるお客さまにお渡しし、保管していただくよう依頼してください。
- この説明書に記載されていない方法や保証書と適合しない内容で工事された場合、また、指定の純正別売部品を使用せず工事された場合、事故や故障が生じたときには責任を負いかねます。
- この製品はリモコン（同梱品）を接続しないと動作しません。必ずリモコンを接続して使用してください。
- この製品は、次世代省エネ基準（IBEC 発行）の および 地域では、機器が故障するおそれがあり使用できません。据え付けしないでください。（冬期最低温度が - 10 を下回る地域では、機器の性能が十分発揮できないことがあります。）
- 住宅の断熱性能は、次世代省エネ基準適合住宅相当（Q値： 地域 2.4W/m²以下、 地域 2.7W/m²以下）としてください。また床下の断熱材は、住宅用グラスウール 16 kg/m³ 100 mm相当以上としてください。床暖房が温まらないばかりか、電気代が高くなります。
- 暖房用循環水が凍結するおそれがある場合は、不凍液（純正ロングライフ液 LL - 10）をご使用ください。この場合、暖房能力が 10%低下します。
- 床暖房は、吹き抜けの部屋や極端に天井が高い部屋ではご使用になれません。十分に能力が発揮されないばかりでなく、電気代が高くなります。
- 浴室では、やけど防止のため、サーモスタット付混合水栓を必ず使用してください。
- 混合水栓には必ず逆止弁付混合水栓（現地準備品）を使用してください。逆止弁の付いていない混合水栓を使用した場合や、混合水栓が故障した場合は、沸き上げ中以外に逃し弁より排水される場合があります。
- この製品は作動中に運転音がします。運転音や振動が気になる場所には据え付けしないでください。
- 積雪地域ではヒートポンプユニットに架台、防雪屋根、防雪カバー（別売品）を必ず取り付けてください。取り付けは、付属の説明書にしたがってください。
- 塩害地では使用できません。
- 適用最大浴槽サイズは 400 L です。
- ミストサウナや食洗機を接続すると、湯切れしやすくなりますのでご注意ください。
- ガス機器から電気給湯機へ変更する際は、事前にガス業者への連絡が必要になります。ガス業者への連絡をせずに無断撤去することは、法令により規制されておりますのでご注意ください。
- 床暖房の据付については、製品の据付要領書をご覧ください。
- 別売のヘッダーBOXを使用する場合は、ヘッダーBOXに付属の工事要領書を確認の上、施工してください。

【お願い】

- 貯湯タンクユニットは吊りあげないでください。
- 製品の上面には上がらないでください。変形することがあります。
- メンテナンスのための十分なスペースを確保してください。

2. 関連部品

部 品 名	必 要 数	型 式
リモコンコード 2 芯 5 m	台所リモコン、 ふろリモコンそ れぞれにいづれ かを各 1	BERC-5M2
リモコンコード 2 芯 1 0 m		BERC-10M2
リモコンコード 2 芯 1 5 m		BERC-15M2
ふる循環アダプター (L 曲がり)	いずれか 1	BDAD-L
ふる循環アダプター (ストレート)		BDAD-S
アース棒	1	BEA-1
脚部後方差込金具	必要に応じ 1	BEM-3S
防雪カバー	必要に応じ 1	BHBC-3
脚カバー	必要に応じ 1	BEAK-56G
床暖房コントローラ	1 / 系統	FHC-4T152E
エコパイプセット S 3 m 10T 断熱	1	BHSEP3-10T






アース棒は、取付けをおすすめする部品です。
積雪地域では必ず取り付けてください。
他の長さもあります。
(2m、5m、10m、15m)




3. 同梱付属品

本体には、下記の部品・付属品が同梱されていますのでご確認ください。

貯湯タンクユニット	ヒートポンプユニット
保証書 取扱説明書 工事説明書 (本書) アンカーボルト施工用型紙 台所リモコン、ふろリモコン 各 1 水抜き要領書・据付工事後のチェックリスト (本書) 試運転ガイド カンタンご使用ガイド	ドレンニップル

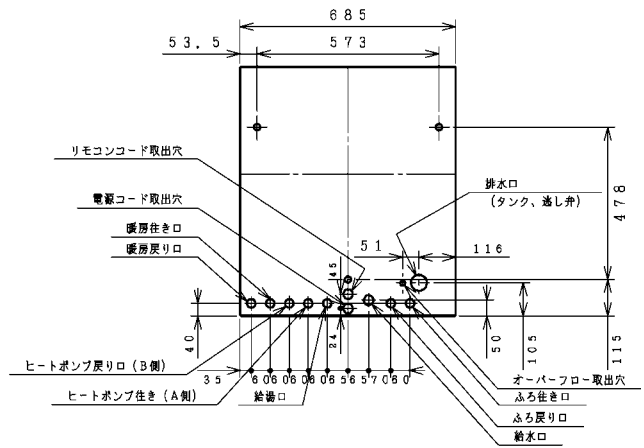
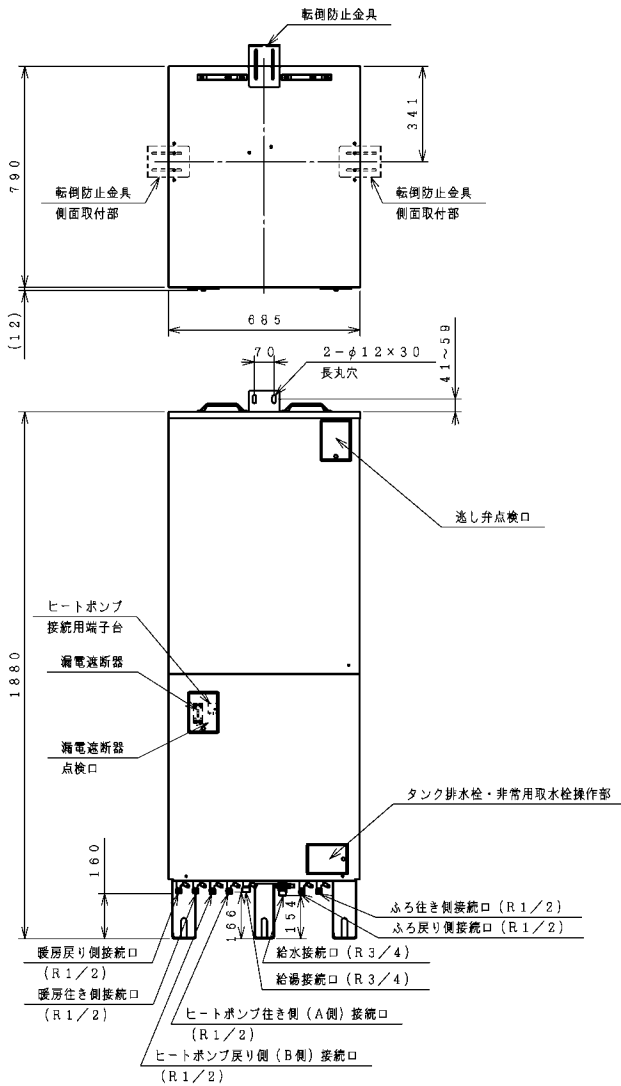
安全上のご注意

 警告	
誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷に結びつく可能性があります。	
	アース工事を必ず行う。 故障や漏電のときに感電するおそれがあります。
	機器の近くにガス類や引火物を置かない。 発火することがあります。
	漏電遮断器の動作確認をする。 漏電遮断器が故障のまま使用すると、漏電のときに感電するおそれがあります。
	シャワー給湯には、必ずサーモスタット付混合水栓(逆止弁付)を使用する。 万一機器の故障時に、やけどのおそれがあります。
	ヒートポンプユニットは屋内に設置しない。 万一冷媒が漏れると、酸素不足の原因になります。

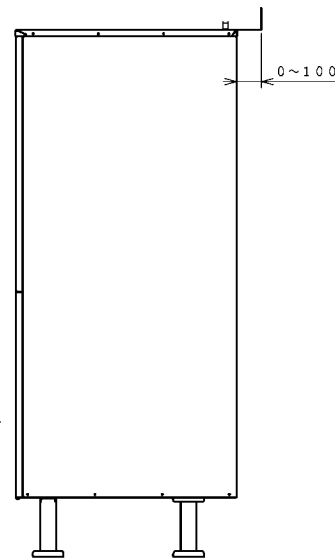
 注意	
誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつきます。	
	防水処理、排水処理をしていない床面に設置しない。 万一漏水のときに大きな被害をおよぼすおそれがあります。
	凍結防止対策を行う。 配管が破裂してやけどをするおそれがあります。
	貯湯タンクユニットの脚3か所を必ずアンカーボルトで固定する。 固定しないと地震などのとき、本体が倒れてけがをすることがあります。
	貯湯タンクユニットを2階以上に据付ける場合は、本体上部を付属の転倒防止金具で固定する。 固定しないと地震などのとき、本体が倒れてけがをすることがあります。
	水道法に規定された水質基準に適合する水を使用する。 石灰分などの多量付着により熱交換器の破損やつまり、硫化物などによる金属腐食が考えられるため、井戸水は使用しないでください。水漏れ、故障の原因になります。
	以下の場所には設置しない。 <ul style="list-style-type: none"> ● 塩害地（海浜地区で潮風が直接あたる場所） ● 最低気温が - 10 以下となる場所 ● 運転音や振動が気になる場所
	給水圧力は、0.2MPa 以上を確保してください。給水圧が低いと、温調等、機器の能力を十分発揮できない場合があります。

4. 製品外観図

<貯湯タンクユニット>

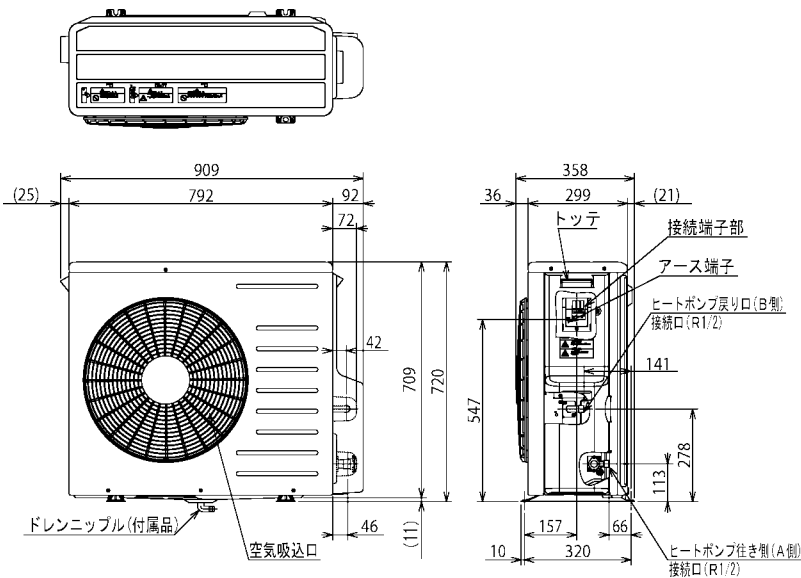


配管取出し位置図

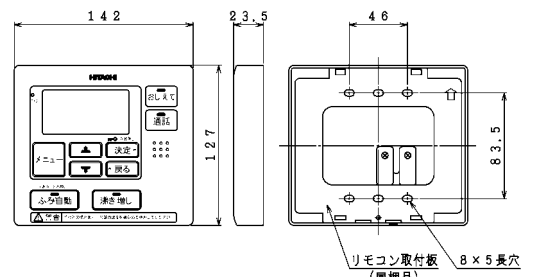


貯湯タンクユニット脚部寸法

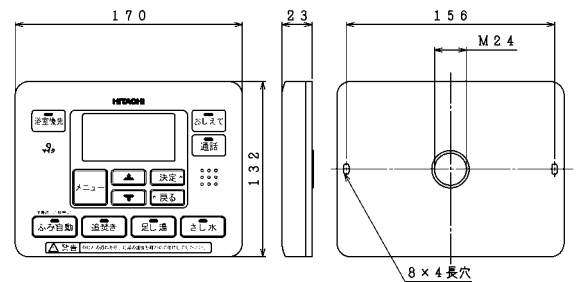
<ヒートポンプユニット>



<台所リモコン>



<ふろリモコン>



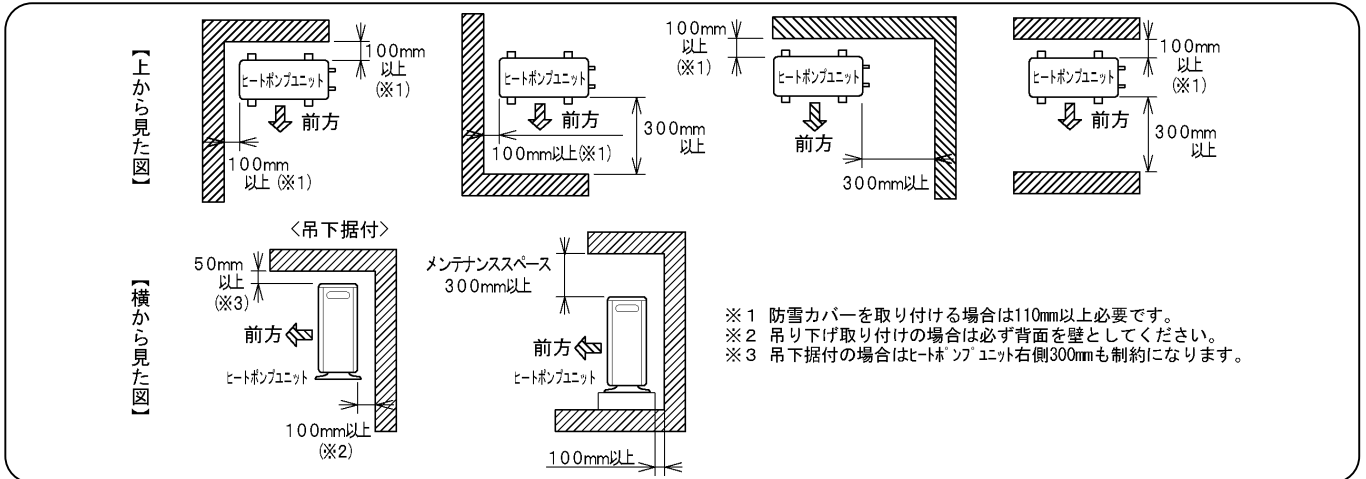
5 . 据付工事

5 - 1 据付場所の選定

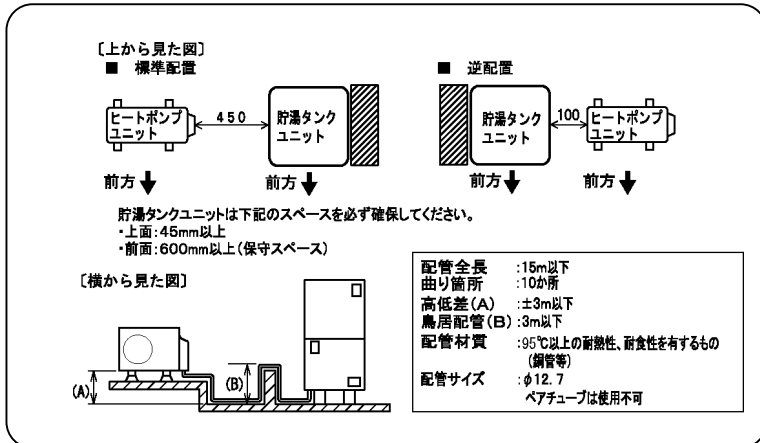
機器と建物のすき間寸法については、各都市の火災予防条例に従ってください。
 ヒートポンプユニット、貯湯タンクユニットは機器の性能や保守点検のため「据付場所の制約」のスペースを確保してください。
 配管に関する「据付場所の制約」を守ってください。
 配管による放熱ロスを少なくするため、できるだけ給湯場所に近い所へ据え付けてください。
 貯湯タンクユニットは高温水を貯湯していますので放熱があります。そのため、原則として屋外に据え付けてください。室内（機械室）に据え付ける場合は、密閉室にならないよう通気口（換気口）を設け、熱がこもらないようにしてください。
 浴室など湿気の多い所には据え付けしないでください。
 雨や雪が降ったとき、水たまりができて水につかるような所には絶対据え付けしないでください。
 積雪地区へ据え付ける場合は、貯湯タンクユニットは小屋がけをして雪がかかるのを防いでください。
 積雪地区へ据え付ける場合は、ヒートポンプユニットは架台の上に据え付ける、また防雪カバー（別売品）を取り付けるなど、降雪および除雪による雪が空気吸込口・吹出口から入らないようにしてください。また、屋根などからの落雪がある場合は推奨品の屋根などを付けて、落雪から機器を保護してください。
 ヒートポンプユニットは屋外で通気性の良い場所に据え付けてください。
 ヒートポンプユニットは沸き上げ中および凍結防止運転中に若干の運転音、振動が発生します。また沸き上げ中は冷風がでますので、寝室の近くやご近所の迷惑になる場所へは据え付けしないでください。
 ヒートポンプユニットは風の吹き抜ける場所、強風の吹く場所に設置しないでください。（風が当たると除霜時間が長くなります。）
 貯湯タンクユニット・ヒートポンプユニットはテレビ・ラジオのアンテナより3m以上離してください。（テレビ・ラジオに映像のみだれや雑音が生ずることがあります。）
 ヒートポンプユニット、貯湯タンクユニットは水平な設置面に垂直に立てて据え付けてください。（傾斜許容限界 2/100）

5 - 2 据付場所の制約

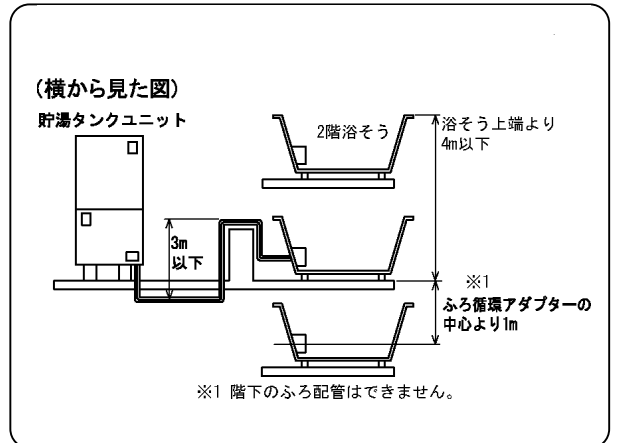
ヒートポンプユニット単体の据付制約（3方向に障害物がある場合は設置不可です）



ヒートポンプユニットと貯湯タンクユニット間の据付制約

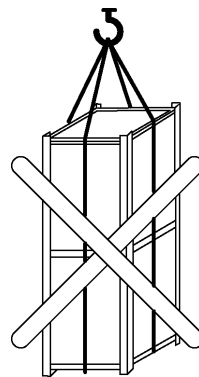


貯湯タンクユニットと浴そう間据付制約



搬入時の注意

貯湯タンクユニットは、吊り上げないでください。2階以上へ運搬する場合は、エレベータやロングリフト等に乗せて、転倒しないように実施してください。本体を横にしたままで地面や物の上に置かないでください。開梱は設置場所近くで行ってください。運搬は2人以上で行い、開梱後の運搬には本体上面に設けてある取手と本体の下部の脚を使用してください。開梱後、仮置きする場合は、強風などにより転倒しないよう充分注意してください。本体の取手を使用し運搬する場合は、製品質量が重いので製品の落下、転倒などによりけがをしないように十分注意してください。



5 - 3 ヒートポンプユニットの据付

【標準据付例】

簡易基礎（市販品）を使用して屋外、床置きにて、水平に据え付けてください。ドレン排水と冠水を防ぐため 85mm 以上のかさ上げが必要です。

ドレンニップルをヒートポンプユニットのドレン口に取り付け、市販の蛇腹ホース（16）を接続し、ヒートポンプユニットの結露水が排水できる位置へ導きます。

結露水の凍結が予想される地域では【ドレンニップルを使用しない排水例】に従い排水対策を行ってください。

積雪地域では【積雪地域の据付け例】に従い防雪対策を行ってください。

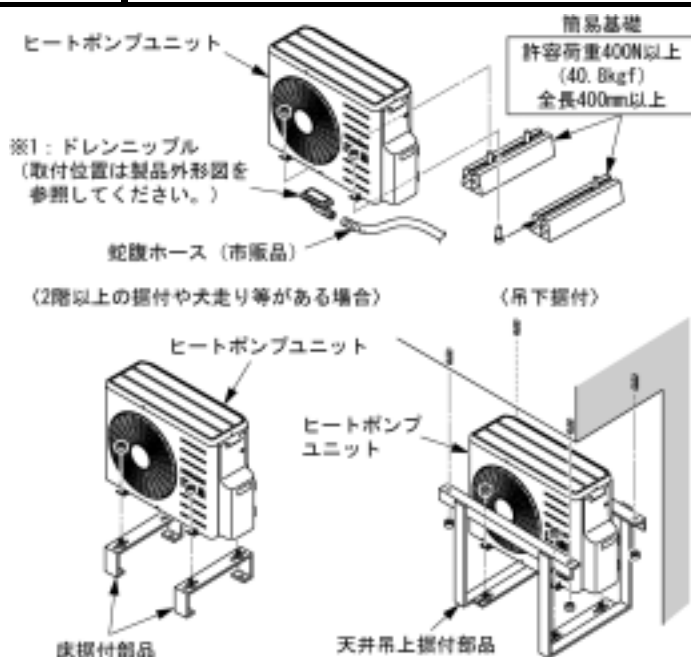
2階以上や犬走りなどに据え付ける場合は、床据付部品を設置面に固定し、据付け部品の上に据え付けてください。

天井から吊り下げる場合は、天井吊下据付部品を使用してください。



警告

・ヒートポンプユニットは屋内に設置しない
 万一冷媒が漏れると、酸素不足の原因になります。
 ・ガス類や引火物の近くには据え付けない
 発火・火災になることがあります。



警告

ヒートポンプユニットを吊下据付する場合は、製品質量に耐える天井強度を持った場所を選定する

推奨品

床据付部品：(株)キャッチャー製：C-BU2
 天井吊下据付部品：(株)キャッチャー製：C-DZG-L

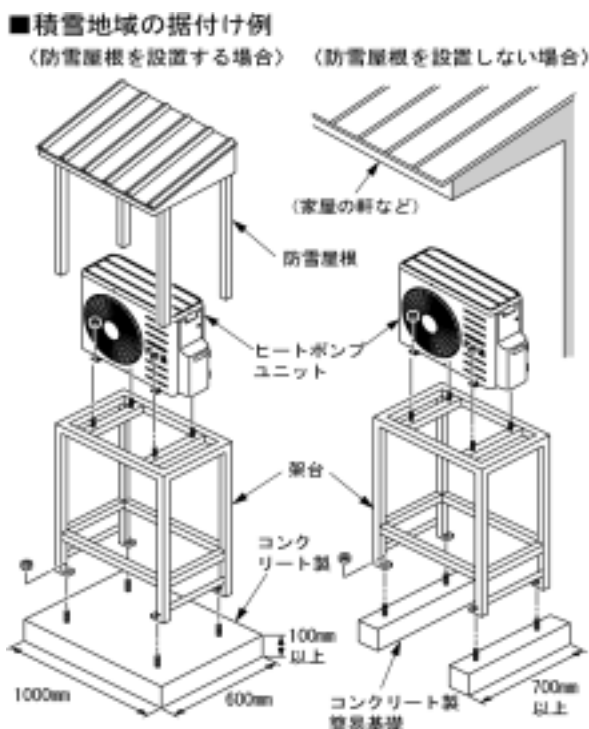
【積雪地域の据付け例】

積雪や落雪によるヒートポンプユニットの埋没などを防止するため架台の上に設置するなどの防雪対策を必ず実施してください。

コンクリート製簡易基礎の上に架台を設置し、据え付けてください。

屋根等から落雪がある場合は、防雪屋根を使用してください。この場合、基礎工事を必ず行い架台をアンカーボルト(M12)で固定してください。

防雪カバー（別売品）を取り付けてください。

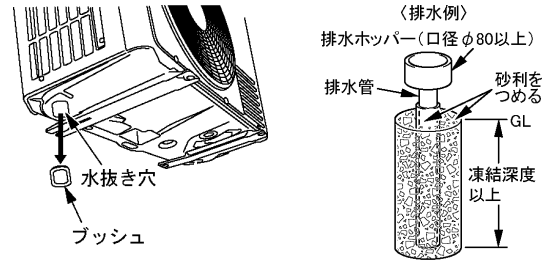


推奨品

架台：(株)キャッチャー製：C-WG-L、C-WZG-L
 防雪屋根+架台：(株)キャッチャー製：PC-RG30+PC-N38

【ドレンニップルを使用しない排水例】

ヒートポンプユニットから排水する結露水の凍結が予想される場合は、ドレンニップルを使用しないでください。
 (必要に応じて、ドレンブッシュをはずしてください。)
 砂利や土の上など結露水を排水できる場所にヒートポンプユニットを据え付けてください。
 犬走りやコンクリート等で、排水の凍結がさげられない場所では、図に示す排水例を参考にして、ドレン口の下に排水ホッパー等を設けるなど排水対策を行ってください。



5 - 4 貯湯タンクユニットの据付

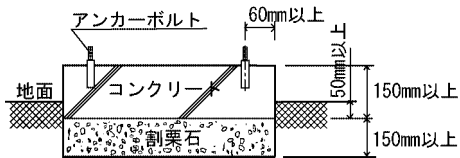
貯湯タンクユニットは、原則として屋外に据え付けてください。

基礎工事

貯湯タンクユニットの満水質量に耐える場所の選定および基礎工事をしてください。

型式	満水時の質量
BHP-TAP461LB	約 550kg

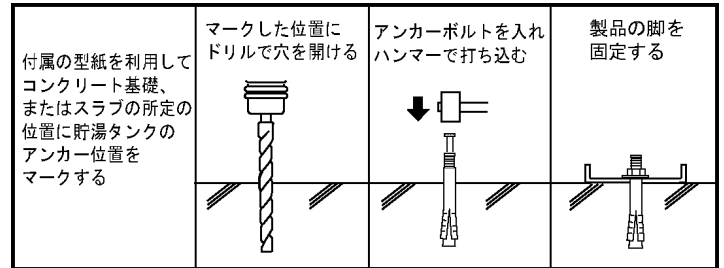
下図に基づき基礎工事を行ってください。
 コンクリートの圧縮強度は 18MPa 以上必要です。



アンカーボルトの下穴は下表を参照してください。
 (芯棒打ち込み式アンカーボルトの場合)

呼び径	ドリル径 (mm)	穴深さ (mm)
M12	12.7	60

アンカーボルトの施工例は下図を参照してください。
 地震時などの転倒防止のため、必ず脚部3か所をアンカーボルトで固定してください。



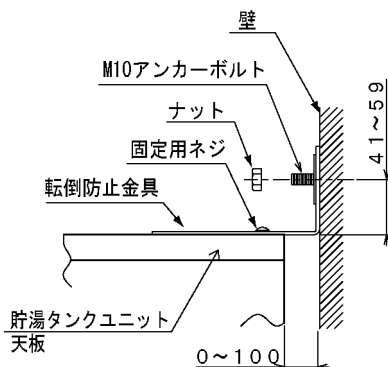
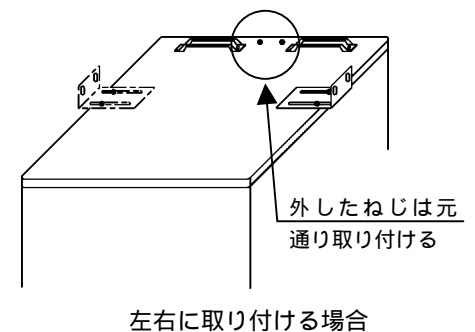
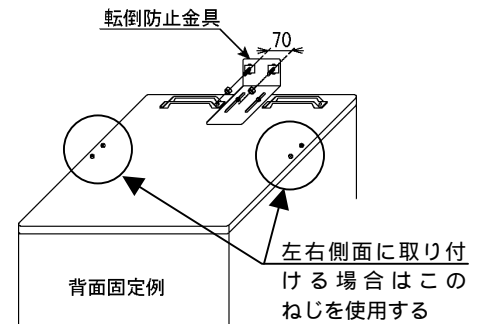
脚部を2か所しか固定できない場合は、下記の転倒防止金具または別売品の脚部後方差込金具を使用して貯湯タンクユニットを固定してください。

転倒防止金具の取付

脚部2か所しか固定できない場合や、貯湯タンクユニットを2階以上に据付ける場合などは必ず転倒防止金具を取り付けてください。
 転倒防止金具は、貯湯タンクユニット上部の背面、左右のいずれかに取り付けます。

貯湯タンクユニット上面に取り付けてある転倒防止金具を外して上向きにして取り付けます。

左右に取り付ける場合は、転倒金具を固定していたねじを元通り取り付け、該当場所の固定ねじを外して転倒防止金具を取り付けます。
 市販のアンカーボルトを使用して、転倒防止金具を壁に固定します。



壁：
 引張荷重 5900N 以上に耐えること。
 アンカーボルト：
 引き抜き力が 2950N 以上になること

6 . 配管工事

水は、必ず水道法に定められた飲料水の水質基準に適合した水道水を使用してください。

塩分・石灰分・イオウ分、その他の不純物を多く含有する水や、純水、イオン交換水、井戸水は給水しないでください。

配管を施工する前に配管内のごみは、きれいに清掃し給湯機内にごみが入らないようにしてください。

給排水配管、給湯配管、ふろ配管、ヒートポンプ配管、暖房配管の配管接続作業は必ずダブルスパナで行い、貯湯タンクユニットに無理な力がかからないよう十分注意してください。

凍結防止のため配管の保温を必ず確実にしてください。

配管工事事用品はシステムに適合した指定の別売品を使用してください。

シャワー給湯栓は必ずサーモスタット付混合水栓(逆止弁付)を、その他の混合水栓も必ず逆止弁付混合水栓を取り付けてください。なお、シャワー給湯栓は構造により出湯量が極端に少ない場合がありますので、最低必要圧力、シャワーヘッドの仕様を確認して選定してください。

全自動洗濯機に直接給湯配管することはできません。

太陽熱温水器のお湯を給水管に接続しないでください。

ミストサウナや食洗機を接続すると、湯切れしやすくなりますのでご注意ください。

ふろ接続は一ヶ所のみです。二ヶ所以上の接続はできません。

タンク排水管の下には必ず排水ホッパーを設けてください。必ずタンク排水管とホッパーとの間に 50mm 以上の空間を設け、排水管の排水が凍結した場合でも、タンク排水管を閉塞しないようにしてください。

(タンク排水(膨張水の排水)管が閉塞すると、逃し弁が動作してもタンクが破損することがあります。)

排水配管には必ず排水トラップを設置してください。排水トラップがないと下水ガス等が逆流して給湯機が腐食します。

試運転終了後、給水接続口のストレーナを掃除してください。

配管用シール剤によっては揮発性ガスによりゴムなどを傷めることがあります。特に引火性のものは使用しないでください。

浴そうへの下り勾配配管は不可です。

配管工事は給水装置工事主任技術者または給水装置工事配管技能者の資格がある方が行ってください。

6 - 1 使用部材について

ふる循環アダプター等は、必ず日立純正部品を使用してください。

▲注意 純正部品以外のふる循環アダプターを使用すると、湯張りが正常に行われません。

機外の給水、給湯配管は耐震性を考慮して、建物の固定配管（給水・給湯管）との接続部にフレキシブル配管を使用することをおすすめします。

場所	使用配管材	配管サイズ	施工上の注意
ヒートポンプ配管	95 以上の耐熱・耐食性を有するもの（銅管、架橋ポリエチレン管、金属強化ポリエチレン管）	10A (12.7)	<ul style="list-style-type: none"> ● ヒートポンプユニットと貯湯タンクユニットを接続する配管は必ず指定サイズを使用してください。指定サイズ以外を使用すると沸き上げ不良や電気代増の原因となります。 ● 配管長さは片道 15m、10 曲りまでです。 ● 配管の高低差は 3m 以内としてください。（鳥居配管を含む） ● ベアリングは使用不可です。A 側、B 側それぞれ独立した配管とし、放熱を防ぐ保温材を巻いてください。 ● 架橋ポリエチレン管はパイプセツト（日立純正品）をご使用ください。 ● 金属強化ポリエチレン管は、パイプセツト S（日立純正品）をご使用ください。
給水配管	耐食性を有するもの（銅管・水道用ライニング鋼管・水道用硬質塩ビ管）	20A (3/4B)	<ul style="list-style-type: none"> ● 点検などで排水するときに必要な、タンク専用止水栓を取り付けてください。 ● 太陽熱温水器は接続しないでください。
給湯配管	90 以上の耐熱・耐食性を有するもの（銅管・耐熱性硬質塩ビ管・架橋ポリエチレン管）	20A(3/4B) または 15A(1/2B)	<ul style="list-style-type: none"> ● 階下への給湯は、本体設置面より下方 3.5m 以内です。 ● 配管径 15A の場合は、20A に比べ給湯流量が約 5% 低下します。
ふる配管	80 以上の耐熱・耐食性を有するもの（銅管・耐熱性硬質塩ビ管・架橋ポリエチレン管）	15A (1/2B)	<ul style="list-style-type: none"> ● 配管の長さは下記の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 15A の場合、15m10 曲がり以内 ・ 13A 架橋ポリエチレン管の場合、15m10 曲がり以内 ・ 12.7 銅管の場合、6m5 曲がり以内 ● 階下へのふる配管はできません。 ● 階上設置の場合、給湯機設置面から浴そうあふれ縁まで、上方 4m 以下にしてください。 ● 鳥居配管は最大高低差 3m 以内で 1 か所としてください。 ● ふる循環アダプターは必ず指定のものを使用してください。 ● フレキ管を使用される場合は、片側 0.5m 以内としてください。
タンク排水管	90 以上の耐熱・耐食性を有するもの（銅管・耐熱性硬質塩ビ管）	20A 以上	<ul style="list-style-type: none"> ● 沸き上げ中にタンク排水管より少量のお湯（逃し弁からの膨張水）がでますので、必ず排水工事を行ってください。 ● 口径 80 以上の排水ホッパーや排水トラップを設けてください。 ● 1/200 以上の先下り勾配とし、配管サイズは必ず 20A 以上でできるだけ短くしてください。排水管の抵抗が大きいと排水栓の吸気口から水があふれることがあります。 ● フレキ管は使用しないでください。流れが悪くなり、排水バルブの給気口より水があふれる場合があります。

ヒートポンプ配管にフレキ管を使用する場合、フレキ管は放熱しやすいのでできるだけ短くしてください。（ヒートポンプ配管合計で 1m 以内）

ヒートポンプ配管には耐熱性ノンアスベストタイプのパッキンを使用してください。ゴムパッキンは使用しないでください。水漏れの原因となります。

ヒートポンプ配管の途中に逆止弁付止水栓は使用しないでください。逆止弁が抵抗になり、沸き上げが正常にできない原因となります。

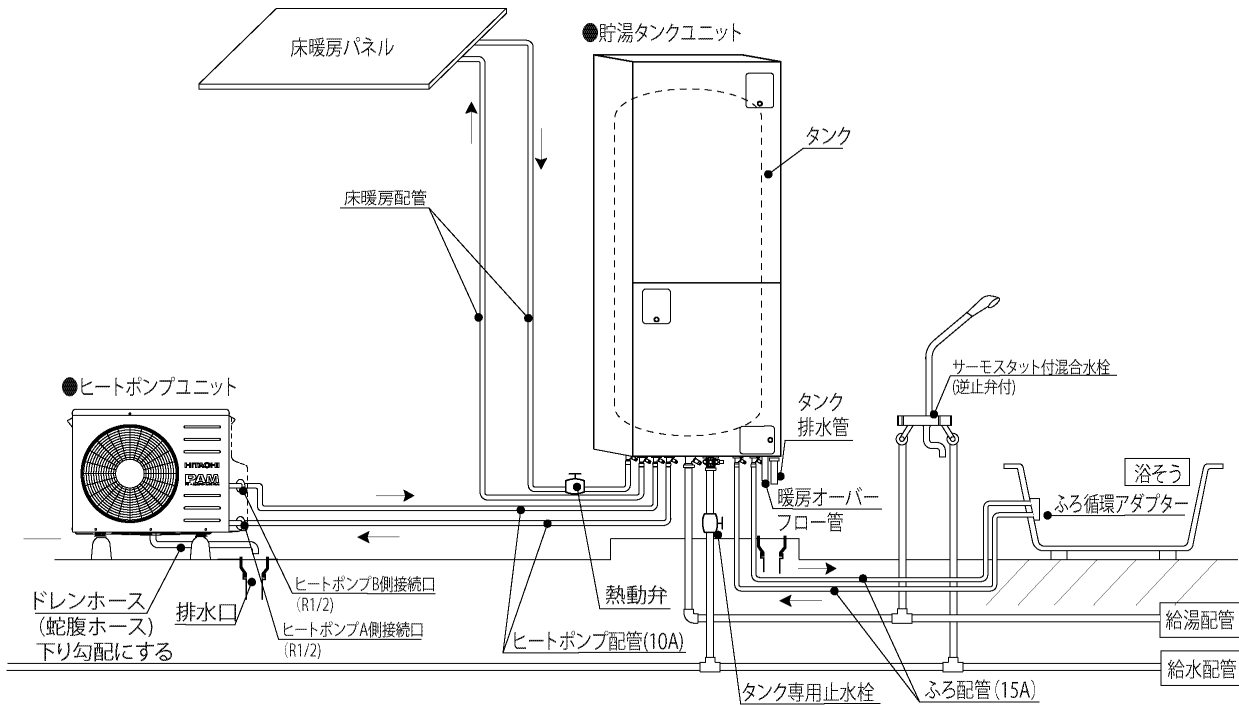
床暖房配管は、推奨床暖房パネルメーカー指示の配管キットを使用してください。または、独立し 10mm 以上の断熱材付架橋ポリエチレン管（住友商事（株）製 HTP - 10A - 1K15 など）をご使用ください。詳しくは、各床暖房メーカーの工事要領書をご覧ください。（架橋ポリエチレン管は、分岐まで 10A、15m、5 曲り、分岐以降は 7A、2m、3 曲りまで）

暖房オーバーフロー配管は、必ず、排水ホッパーに受け、先端は水面につからないようにしてください。

6 - 2 ヒートポンプ、ふろ・給湯配管工事

標準配管例

給水圧 0.2MPa 以上



排水口付近詳細

- ・タンク排水管の先端は、排水ホッパー部が凍結しても、タンク排水管が凍結しないよう排水口空間を50mm以上設けてください。
- ・タンク排水管と排水ホッパーの中心を合わせてください。

排水接続口

暖房オーバーフロー管

タンク排水管

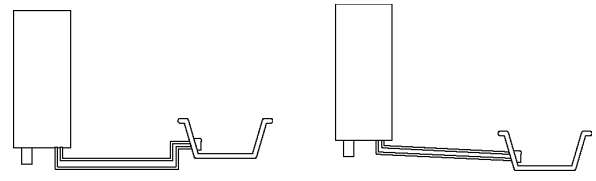
排水ホッパー

50mm

ふろ配管施工例

正しい施工例

× 誤った施工例

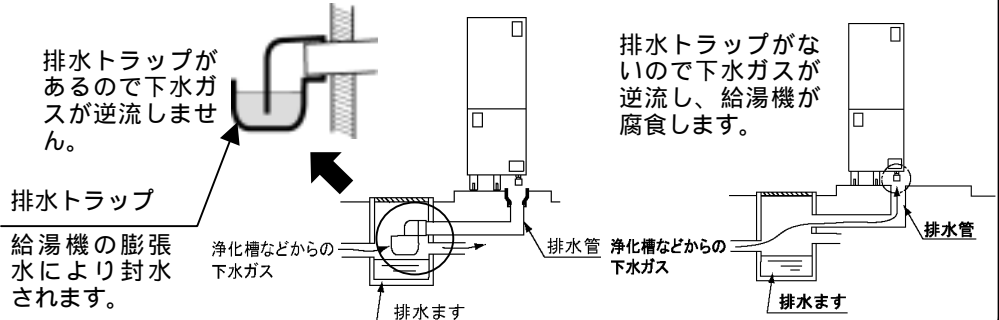


排水配管には必ず排水トラップを設置してください。

排水トラップがないと浄化槽などから下水ガスが逆流して、給湯機が著しく腐食し故障の原因になります。

正しい施工例

× 誤った施工例



6 - 3 ふろ循環アダプターの取り付け

ふろ循環アダプターは必ず日立純正品をご使用ください。
日立純正ふろ循環アダプターは厚さ 20mm までの浴そうに対応します。
無極性ですので、行き・戻りの指定はありません。

●浴そうの穴あけ

浴そうの底部から約100~150mmの位置にφ50mmの穴を開け、パッキンの当たり面を平滑にしてください。このとき、穴の中心から45mm以内は浴そう底面の曲がりにかからない位置にし、平面部を確保してください。また、バリはきれいにとってください。(図1)

(注)浴そうの外側に保温材があるものは、直径約80mmの範囲内を丁寧に除去してください。(図2)
保温材が残っているとシール性が悪くなり水漏れのおそれがあります。

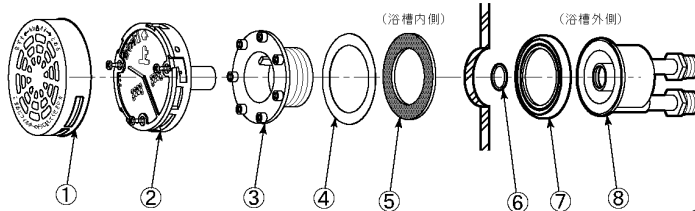
底部からの高さを誤ると、湯はり時の水位が正常にならない場合があります。

フィルターセット取り付け注意

フィルターセットをフィルターガイドに無理に押し込まないでください

1. フィルターガイドは必ず『上』のマークを上にして取り付けてください。
2. フィルターセットは、フィルターガイドの『』刻印にフィルターセットの『』を合わせてはめ込み、右に止まるまで回してください。フィルターセットを正しく取り付けるとお湯吐出口は下側になります。

取り付けの前に、下記部品の数量を確認してください。
(平シートと平パッキンは取り付けたまにしておいてください。)



ふろ循環アダプター本体

番号	品名	数量
①	フィルターセット	1
②	フィルターガイド	1
③	浴槽ボルト	1
④	平シート	1
⑤	平パッキン	1
⑥	オリング	1
⑦	カプセパッキン	1
⑧	循環口ボディ	1

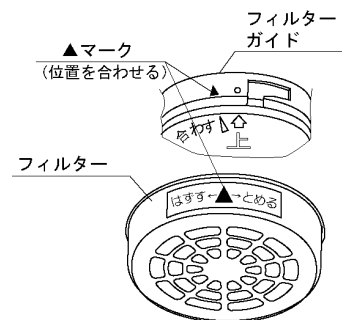
※循環口ボディは品番により形状が異なります。



⑨ 一人施工用フック棒 ⑩ 取付説明書

付属品

番号	品名	数量
⑨	一人施工用フック棒	1
⑩	取付説明書	1



6 - 4 凍結防止工事

保温工事がしてあっても周囲温度が 0 以下になると配管は凍結します。機器や配管が破裂する場合がありますので適切な凍結防止対策を施工してください。

凍結防止ヒーター施工例

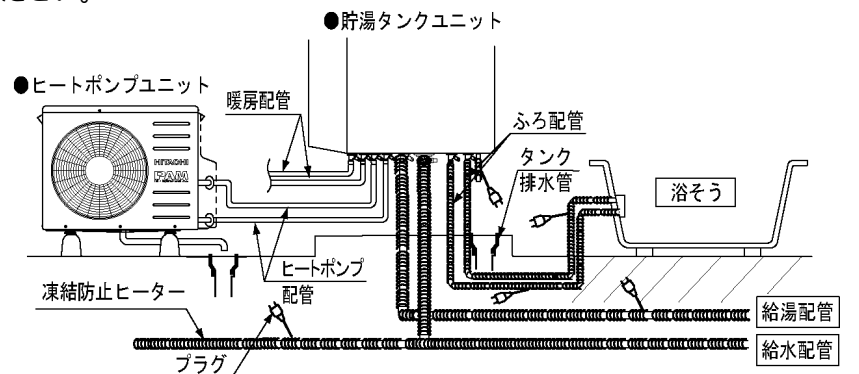
試運転(9 項)終了後、配管の水漏れがないか確認して、凍結防止工事を行ってください。

凍結のおそれのある配管部分すべてに巻いてください。

凍結防止ヒーターは配管に直接取り付け、その上に保温材を巻いてください。

給水配管、給湯配管、ふろ配管、タンク排水管は各接続口まで巻いてください。

凍結防止ヒーターは何本も使用しますので、適当な位置にコンセントを設けてください。コンセントはヒーターコードの出口より高い位置に取り付けてください。低いと雨や水がコードをつたわりコンセントにかかる恐れがあります。



給水配管、給湯配管、ふろ配管、タンク排水管にヒーターを均一に巻いてください。

お願い

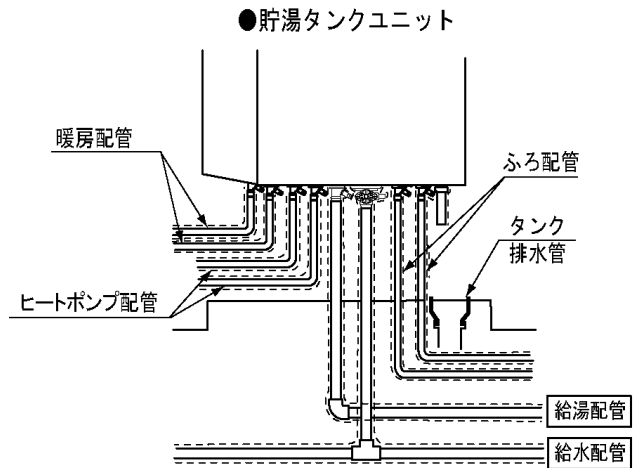
凍結防止ヒーターの施工はヒーター同梱の説明書に従ってください。
凍結防止ヒーターの取扱方法、操作方法をお客様に充分説明してください。

6 - 5 保温工事

試運転(9項)終了後、配管の水漏れがないか確認して、耐熱保温材を使用して保温工事をしてください。保温材の厚みは 10mm 以上で各水道事業者指定の厚みに従ってください。

給水継手、給湯継手、ヒートポンプ継手、ふろ配管継手、暖房配管継手、タンク排水管継手も必ず保温材を巻いてください。

保温工事をした部分は、保温材がぬれないようテープなどで防水処理をしてください。



6 - 6 特殊配管工事

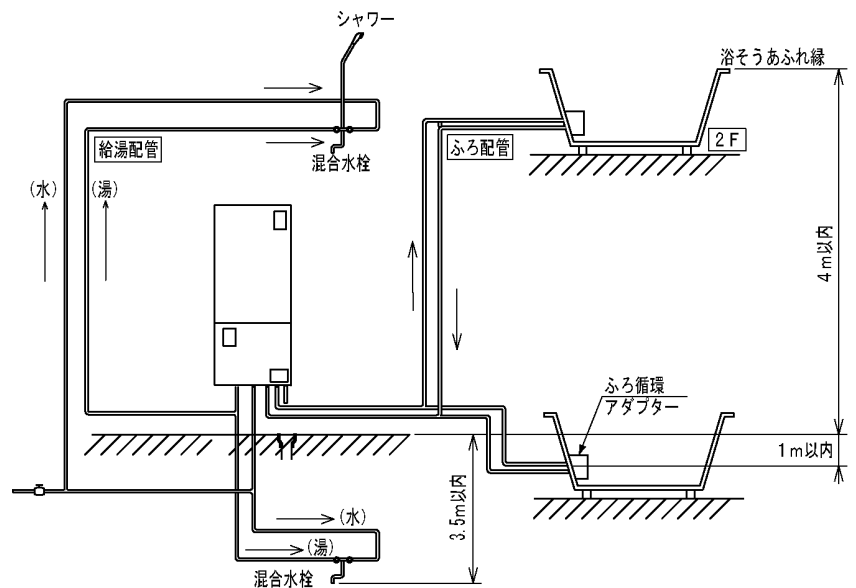
階上給湯、階下給湯とも給水圧は 0.2MPa 以上が必要です。

階上給湯注意点

貯湯タンクユニット設置面より、浴そうあふれ縁までの高さは上方 4m 以内としてください。

階下給湯注意点

階下への浴そう設置はできません。貯湯タンクユニット設置面より、ふろ循環アダプターまでの高さは下方 1m までとしてください。給湯配管は貯湯タンクユニット設置面より下方 3.5m までとしてください。



6 - 6 床暖房工事

床暖房コントローラは、1室に1セットずつ取付けてください。

暖房循環流量は6L/minまでとしてください。

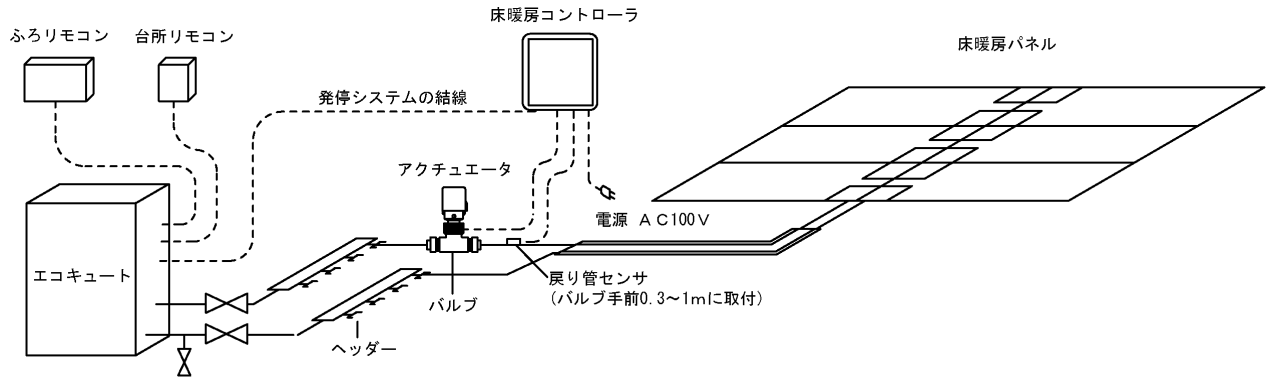
操作部により、温度調節が設定できますが、高温の設定では低温やけどが生じる場合があります。

また、床仕上げ材の寿命、ランニングコストにも良くありません。パネルの敷設率を高くし(70%目安)、なるべく低温で設定してください。

床暖房パネルが複数系統ある場合は、バルブにて、流量調整を必ず行ってください。

床暖房パネルが温まらない等の不具合が生じる場合があります。

床暖房コントローラ、床暖房配管の施工につきましては、床暖房コントローラに付属しています工事説明書を参考に施工してください

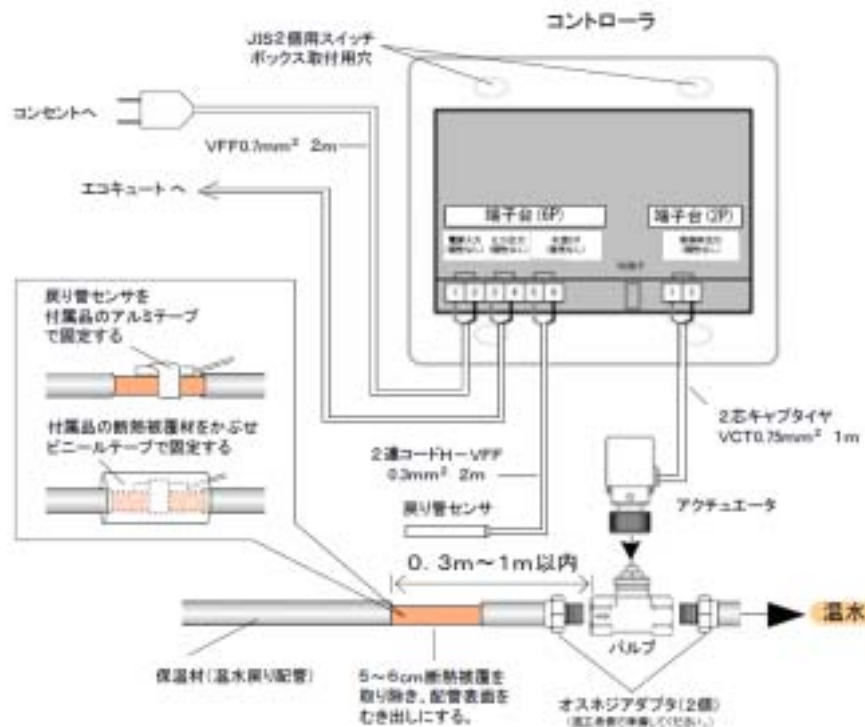


床暖房コントローラの設置は、下図のように計画してください。

床暖房運転は、戻り管センサにより戻り管温度を検知し、バルブに信号を送り、バルブを開閉し制御します。
 (1)バルブは防滴構造ではありませんので、屋内に取付け、バルブはアクチュエータが上向きになるようにし、流れ方向を確認して暖房戻り配管に取付けてください。

(2)戻り管センサは、床暖房戻り管(バルブ手前 0.3~1m)にしっかりと取付け、付属の断熱被覆材で覆ってください。

(3)床暖房コントローラは、床暖房室の壁の高さ 1.5mで直射日光や他の放熱器の影響のない所へ取付けてください。取付けには、壁の深さが 50mm以上必要です。取付け位置には、あらかじめ 2 個用スイッチボックス(JIS C8336)を取付け、接続ケーブルを通してください。スイッチボックスは施工者側で準備してください。



床暖房コントローラ FHC-3T152Eをご使用の場合

工事説明書補足

工事説明書本文は、別売品FHC-4T152Eをご使用になる場合について記載しています。

FHC-3T152Eもご使用いただけますので、以下の要領にて施工をお願いします。

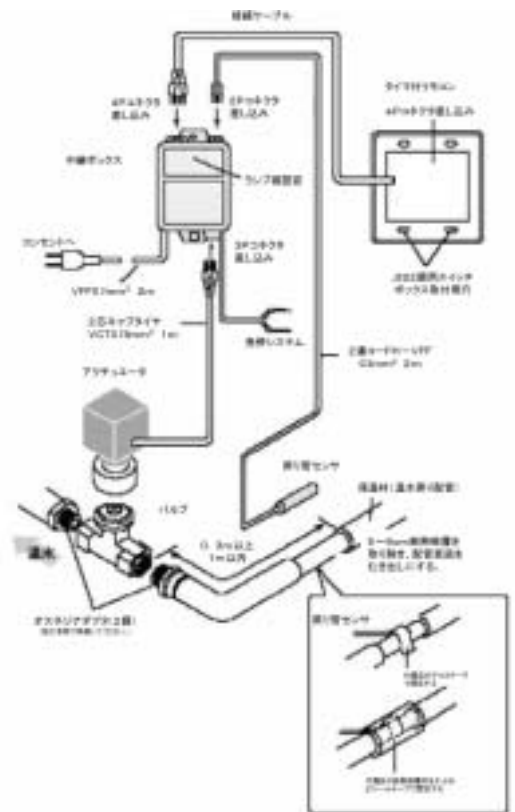
詳しくは、床暖房コントローラ付属に工事説明書を参照ください。

その他の床暖房コントローラをご使用の場合は、各床暖房コントローラ付属の工事説明書を参照ください。

床暖房コントローラの設置は、下図のように計画してください。

床暖房運転は、戻り管センサにより戻り管温度を検知し、バルブに信号を送り、バルブを開閉し制御します。

- (1)バルブは防滴構造ではありませんので、屋内に取付け、バルブはアクチュエータが上向きになるようにし、流れ方向を確認して暖房戻り配管に取付けてください。
- (2)戻り管センサは、床暖房戻り管(バルブ手前 0.3~1m)にしっかりと取付け、付属の断熱被覆材で覆ってください。
- (3)床暖房コントローラは、床暖房室の壁の高さ1.5mで直射日光や他の放熱器の影響のない所へ取付けてください。取付けには、壁の深さが50mm以上必要です。取付け位置には、あらかじめ2個用スイッチボックス(JIS C8336)を取付け、接続ケーブルを通してください。スイッチボックスは施工者側で準備をしてください。



床暖房コントローラの施工方法につきましては下図を参考にしてください。

- ・バルブとタイマ付リモコンの取付け位置が決まりましたら、建物の壁等が仕上がる前に接続ケーブルを配線します。
- ・タイマ付リモコンの取付け部に、JIS 2個用スイッチボックスを取付けて、接続ケーブルを少し引き出しておきます。
- ・中継ボックス側は、中継ボックスの取付け位置まで配線しておきます。
- 注意 -
- * タイマ付リモコン側と、中継ボックス側のコネクタを必ず確認してから配線してください。

- ・壁が仕上がってから取付けてください。
- ・カバーの下側にあるベースの角穴(2ヶ所)にマイナスドライバ等を差込、カバーをはずします。(ツメ8ヶ所固定)
- ・ベースに引き出しておいた接続ケーブルのコネクタを通し、ベースをスイッチボックスに付属のネジ(4本)で固定します。
- * ネジは必要以上に強く締めないでください。
- ・本体裏面のソケットに、接続ケーブルのコネクタを確実に差し込みます。
- ・カバーのツメ(8ヶ所)をベースの角穴に差し込み、パチンと音がするまで押し込みカバーを固定します。

